

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田壽夫(文、写真)、倉谷邦雄(写真)、山 國(写真)

日 時：2018(平成 30)年 3 月 18 日(日) 9:30～15:30

気 象：天候=晴 (12 時の気温：9℃)

活動エリア：45 林班に-03

活動内容：天然林の林床整備(倒木・切り放し木の処理、枯損木・常緑樹の除伐)
人工林の枝打ち・林床整備

参加者：泉家恵子、斧田一陽、小櫃徹夫、倉谷邦雄、黒山泰弘、河野直子、下沖裕子、杉本佳英、
武田壽夫、宮本 廣、山 國 (計 1 1 名)

<今日は彼岸の入り>

拙宅の「月暦」では鳥の巣づくりの時期とか、山では「ツッピー・ツッピー」と四十雀の求愛の声がしきり。天気は下り坂との予報が気になったが終日マズマズで、寒からず・暑からずと気温にも恵まれた一日。久しぶりの穏やかな活動日となった。

今日は「45 林班に-03」に降ってモニタリング調査区の先、天然林と人工林の境目辺りでの作業。これまであまり手を入れておらず、人工林は幹に枯枝をまとい、足下は倒木や切り離れたままの残置木が散乱、天然林には枯損木や日照を遮る広葉樹が密生、とやり甲斐は一杯で「ヤレヤレ」。この森林づくりの会の総会は 4 月 16 日(月)に予定していることが伝達され、用具ザックと高枝切り鋸など装備万端を整えてイザ『出発』。活動場所までは約 15 分の降りとなる。

<成果は山盛りだが……>

写真では全域をお伝え出来ないが、足下の倒木、頭上の密生ぶり、立木の枯枝と、想像以上の荒れた状態。棚積み移動の力技、除伐した常緑樹の枝掛かりと四方に広がった枝の始末、高さ 4～5m の枝切りと、筋肉と腰に鞭打つ思い。幸い、一帯は比較的広くて緩やかな地形なので割とスムーズに作業を進めることが出来、0.5ha の整備を終えた。5～6 本のヤマザクラが常緑樹で囲まれていて、除伐で日照を回復出来たことも成果の一つ。開花が楽しみ!!

<季節の山だより & 新名神(川西 IC=神戸 JCT)供用開始>

「山だより」は早春のタマゴケ、4 月には真ん中に赤い斑紋が出来、鬼太郎の目玉親父のようになるそう。今一葉はゴルフ場に迷いでた(?)「ニホンカモシカ」、これは郡上八幡在住の会員からの贈り物。

新名神はこの日 15 時から供用開始、高槻=川西間は既に開通していて、これで三田方面からの車での参加もズット便利になりそう。付帯工事だった自然歩道の整備も写真の通りあと少しと言うことで、見た所、坂の階段にはコンクリート製の擬木が使われているらしい。

(本文 以上)

【参加 11 名】



【民有地に倒木が残る里道を進む】
右の国有林は当会が整備済み



【倒木 2 本と画面奥の常緑樹を選択除伐】



【左の作業後で後方も明るく、山桜はこの奥】



【切り放し木の整理からスタート】



【残る大径の根方はチェーンソーの威力で】



【タマゴケの胞子体】



【ニホンカモシカ-郡上八幡の井上さんより】



【枝打ち作業前-高所まで枯枝が見える】



【枝打ち-高い位置から鋸を使う】



【枝打ち後の人工林】



【高架下から自然歩道へのトラバース道】

